

第3編 標準マニュアル

1. 標準マニュアルについて

標準マニュアルには、「震災対応マニュアル（例）」と「事前対策マニュアル（例）」があり、次のような特徴があります。

「震災対応マニュアル（例）」は、震度5強以上の地震が発生した時の、マンション居住者の基本的な活動を示したもので、全居住者が知っているといふ内容を整理できるようにしています。

「事前対策マニュアル（例）」は、震災対応マニュアルを作る前に、大地震が発生した時の活動を考えるために、事前に把握しておくべき基本的な事項を示したものです。こちらは、震災対応マニュアルの策定メンバーの方が使うことを想定しています。

どのようなマンションでも、震災時の活動の基本的な取り組みのながれは共通ですが、規模や設備の違い、居住者の状況、マンションのタイプなどによって、条件は異なります。

これらを参考にして、できそうな内容から、お住まいの住宅タイプや規模に応じたマニュアルづくりを進めましょう。



■基本的な取り組みのながれ

安否確認や救助、救護活動を優先

各階で活動

対策本部に情報集約

対策本部から居住者に報告・指示

コラム

特徴のあるマニュアルづくり

【汐浜サンハイツ災害協力隊の災害対応マニュアル】

- ・「大地震が起こってから、誰が読んでも使えるものにしよう」という考え方で、災害直後から概ね1週間程度をイメージしたマニュアルになっています。
- ・震度5の地震が発生した場合に、ブロックリーダーを中心に各自で活動をスタートさせ、状況が落ちつき次第、班組織に移行することにしています。
- ・安否確認等に必要なトランシーバーの使い方や連絡の取り方を丁寧に示しています。

【Wコンフォートタワース災害協力隊の防災マニュアル】

- ・東日本大震災以前に、区の助成金を活用して作成し、全戸に配布するとともに、転入者にも配布しています。さらに、東日本大震災の教訓を踏まえて別冊版を作成しています。
- ・周辺の避難所などが分かる防災マップを添付したり、外国人居住者にとっても見てわかりやすい内容とするためイラストを多く活用しました。また、被災しても居住者自らの力で、7日間以上自宅で過ごすことができるような準備を呼びかけています。



右：汐浜サンハイツ災害協力隊
左：Wコンフォートタワース災害協力隊

